
涙

からたちみかん

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
涙

【Nコード】
N1313D

【作者名】
からたちみかん

【あらすじ】
忘れることのない失った『恋』への想いを。

街角で君に似た面影を見つけ、思わず振り返った。ここに君がいないことなんてわかつているのに。いつまで経っても君に似た人を見るたびに胸が痛む。

空を見上げれば鈍色の雲が重く立ち込めていた。隙間から降り注ぐ光。雲は驚くほど早く流れていく。風が強い。寒さが身にしみて身を強張らせた。

君と別れてから何年も経つのに。君のことが忘れられなかった。風のうわさで君は田舎に帰って結婚したと聞いた。もう二度と会うこともないだろう。手放してしまった大切な君を僕はどれだけ傷つけただろうか。

失ってから知る君の大切さ。

いとおしさ。

こんなにも愛していたのならばもっと君を大切にしていればよかった。

今更ながらに後悔する。あの頃の僕は若くて無知だったことにすら気づかなかった。

淡い痛みは涙にすらならない。

突然、君は僕の前から姿を消した。そのわけを知ったとき僕は泣きたかったのに泣けなかった。もともと僕は涙を流すようなセンチメンタルな性格の持ち主ではなく。だからこそ泣けてしまえば楽になれたのと思った。

今でも、時折泣けたらどれだけ楽なのだろうかと思う。

いや、わかっている。泣いたところで何一つ変わらない。

この現状も、痛みさえも。

風が吹いた。冷たさで顔が痛くなるほどの強い風。ぎゅっと、目を閉じた。乾いた空気。水分の全てを奪う冷たさで。

僕はもう一度空を見上げた。

君を想いながら。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1313d/>

涙

2010年12月17日03時04分発行